街角とあなたをネットする暮らしと文化の情報紙

まちかど

●荏原第一地域新聞●

第１５２号
平成２７年（２０１５）１１月発行
発行・事務局
◎ 荏原第一地域センター ◎
小山 3-22-3（〒142-0062）
tel ３７８６－２０００
fax ３７８６－５３８５

高めよう、地域防災力！
1120名が参加して 総合防災訓練

品川区防災協議会・荏原第一地区協議会主催による総合防災訓練が10月18日（日）、林試の森公園「大きな広場」で実施されました。参加人数は１１２０名でした。

午前９時に開会式が行われ、濱野区長が挨拶。その後、荏原第一地区協議会会長で荏原４丁目町会三瓶会長の訓練開始宣言を合図に、合同訓練が始まりました。

力強い水の勢いを感じる一斉放水訓練

参加者を３つのグループに分け、応急救護コーナー、初期消火コーナーなど25分ローテーションで学びました。ＡＥＤの使用方法やスタンドパイプの組み立てや消火器の使い方を熱心に習う様子がとても印象的でした。参加者の防災意識の高さを感じます。

さらに、今年度より新設された体験コーナーでは煙体験ハウスが設置されました。火災時における煙の怖さと避難方法を学ぶ貴重な体験ができました。

各コーナーの体験終了後、トリアージ訓練を行いました。荏原医師会の飛騨先生の指導のもと、医療救護について全員で確認しました。

訓練の締めくくりは、一斉放水訓練。小山台２丁目町会、小山１丁目町会のスタンドパイプ隊、各町会ミニポンプ隊、区民消火隊、荏原第一中学校、荏原消防団の方々のきびきびとした動作や、テキパキとホースを扱う姿を目の当たりにし、会場は大きな拍手と喝采に包まれました。

（事務局）

花めぐり

ヒイラギ

初冬に咲くモクセイ科のヒイラギの小さな白い花は、キンモクセイに似た芳香を放ちます。

背は低く常緑広葉樹であるため、盆栽などにも使用されています。葉の縁はトゲになっており、触るとヒリヒリ痛むほどです。古語の疼（ひいら）ぐが名称の由来とか。

花言葉は「用心深さ」「先見の明」「保護」。若いうちは、身を守るために葉にトゲがあり、年齢を重ねていくと、尖っていた葉が少しずつ丸くなり、最後にはトゲがすっかりなくなって、丸い葉になります。

古くから、鬼門除けとして、邪鬼の侵入を防ぐと信じられて庭木に使われ、家の庭には表鬼門（北東）にヒイラギ、裏鬼門（南西）にナンテンの木を植えると良いとされています。

クリスマスの飾りに使うセイヨウヒイラギ（モチノキ科）やヒイラギナンテン（メギ科）がありますが、これらは別種です。

（広報委員　相塲武）

電気ストーブ火災にご注意！

暖房器具の中でも、電気ストーブ（カーボンヒーター、ハロゲンヒーター、温風機等含む）は灯油等の燃料もいらず、電源を入れるだけで使用でき、手軽で安全に見えますが、果たして本当にそうでしょうか？

実は一見、手軽で安全に見える電気ストーブでも、適切に使用しなければ火災の原因となります。過去５年間（平成22年から26年）のストーブが原因の住宅火災は６５８件発生しており、そのうちの４８７件が電気ストーブを出火原因としています。

電気ストーブから発生した火災の傾向として、寝具類、座布団、衣類が電気ストーブに接触して着火する割合が高くなっています。就寝する際や、部屋から離れる時などの人の管理が及ばなくなる時には、電源を切りましょう。

また、洗濯物を電気ストーブで乾かそうとすると、洗濯物が落下して電気ストーブに接触してしまう可能性が高まるので、電気ストーブで洗濯物を乾かすのはやめましょう。

冬を快適に過ごすために、次のポイントに注意して火災を防ぎましょう。

・電気ストーブの周りに物を置かない
・寝る時、部屋を離れる時は電源オフ
・洗濯物を乾かすために使わない

（荏原消防署小山出張所）

お詫び

先月発行１５１号の１面記事で使用した神輿の写真は、両社祭とは一切関係のない写真でした。お詫び申し上げます。

（事務局）

街角ウォッチング

平塚の碑

中原街道は、古くは鎌倉に通じる古道で、江戸時代は東海道の脇街道として利用されていました。その街道の平塚橋の交差点西側、バーミヤン脇の小道を行くと、その裏路地には平塚の碑がひっそりと建っています（荏原４－６－４）。

平安時代中期、出羽の国（現：東北地方）で力をふるっていた清原氏の内紛を源義家が抑えようとした「後三年の役」でのことです。兄の義家を助けるために京都から駆け付けた新羅三郎（源義光）の活躍もあって戦いは無事に落ち着き、出羽からの帰途、このあたり荏原郡平塚村で兵士たちを止め野営することになりました。

その夜、盗賊の襲撃を受け多くの兵士たちはその場で命を落としてしまいました。これを憐れんだ村人たちは亡くなった人たちを葬り、広さ１０坪（約３３㎡）ほどの塚を築いたとのことです。

この塚は次第に忘れ去られ、いつしかなくなってしまいましたが、太平洋戦争の後、このあたりを掘り起こした所、鎧や兜、刀剣などの残片が沢山見つかりました。同じころ、近くに住む人々が、たびたび不吉なことに出会うので義光のたたりではないか、という声が出て、昭和２７年（１９５２）に地元有志の手で平塚の碑が建てられました。

昭和３３年（１９５８）からは毎年５月に慰霊祭が行われています。

（広報委員　池田美貴子）

◎各ご家庭に配布しております。１部ずつお取り下さい。 次号『まちかど』は、１２月２１日(月) 発行の予定です。

「まちかど」は、品川区役所ホームページからもご覧いただけます。 http://www.city.shinagawa/tokyo.jp/
古紙を配合した紙を使用しています